

JOINT STAFF PRESS RELEASE

<http://www.mod.go.jp/js/>

平成28年度自衛隊の災害派遣及び 不発弾等処理実績について



29. 4. 21

統合幕僚監部

平成28年度に実施した大規模な災害派遣

件 名	派遣人員	時 期	活動地域	活動内容
平成28年熊本地震に係る災害派遣 (熊本、大分)	約81万4千人	4/14 ～ 5/30	・熊本県 ・大分県	・人命救助 ・生活支援 等
高病原性鳥インフルエンザに係る災害派遣(1道7県)	約14,700人	11月 ～ 3月 (派遣件数:9件)	・1道7県	・殺処分 等
台風10号に伴う大雨に係る災害派遣(岩手、北海道)	約6,100人	8/31 ～ 9/18	・北海道 ・岩手県	・人命救助 ・生活支援 等

平成28年熊本地震



高病原性
鳥インフルエンザ



台風10号
(北海道)



台風10号
(岩手県)



別紙第1「平成28年熊本地震に係る災害派遣(熊本、大分)」
 別紙第2「高病原性鳥インフルエンザに係る災害派遣(1道7県)」
 別紙第3「台風10号に伴う大雨に係る災害派遣(北海道)」
 別紙第4「台風10号に伴う大雨に係る災害派遣(岩手)」

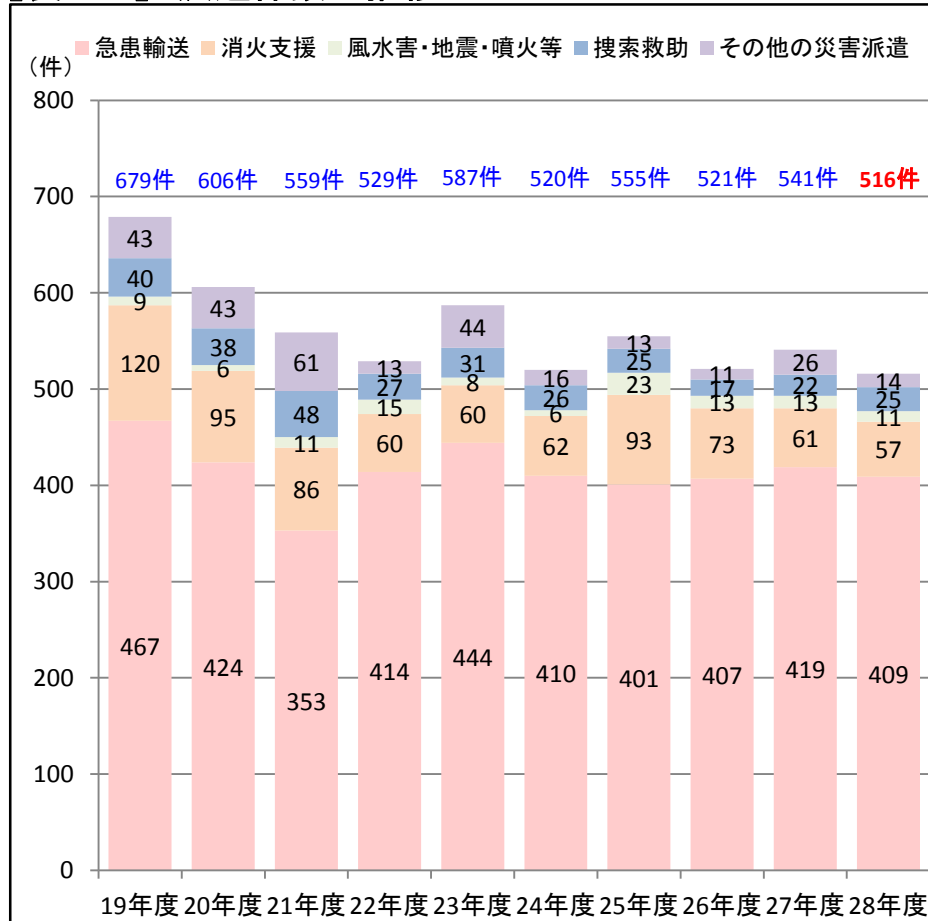
1 災害派遣

(1) 全 般

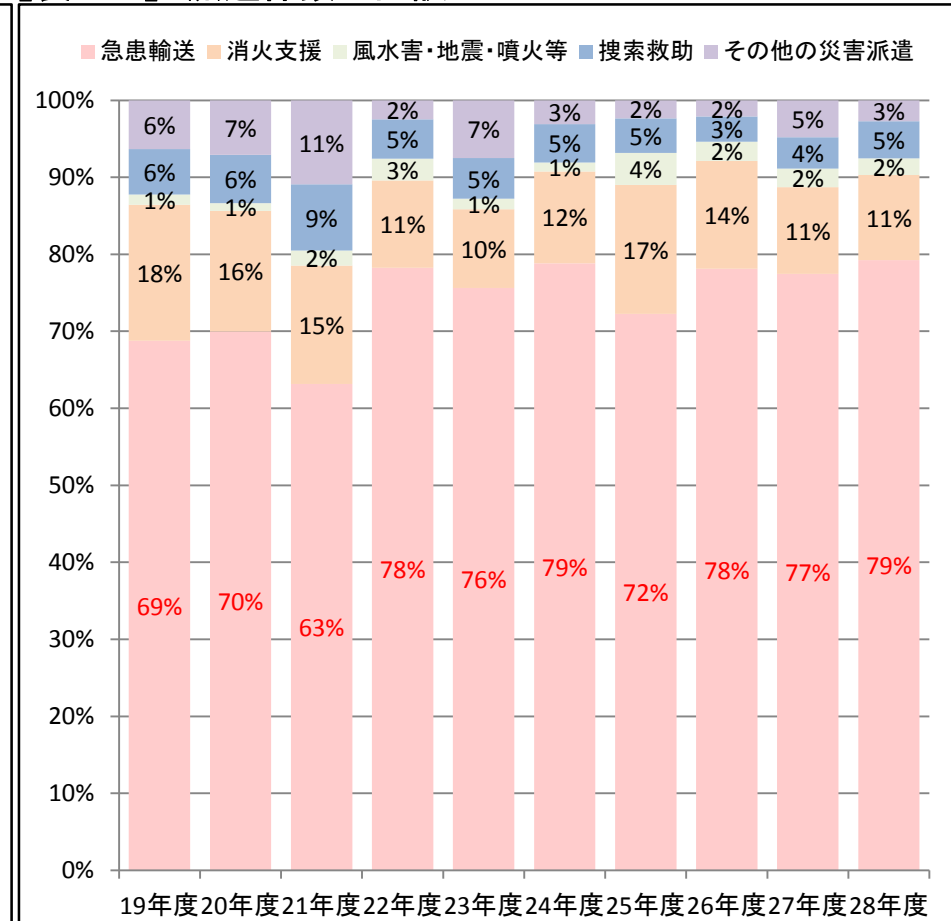
■ 28年度派遣件数：516件

- 総件数は、前年度比25件減少したものの、依然500件超で推移
- 過去10年間、「急患輸送」の占める割合が最も大きく、28年度は約80%
- 派遣件数の内訳は、概ね一定の割合で推移(派遣規模の大きい「風水害・地震等」は約1～4%)

【表1-1】 派遣件数の推移



【表1-2】 派遣件数の内訳

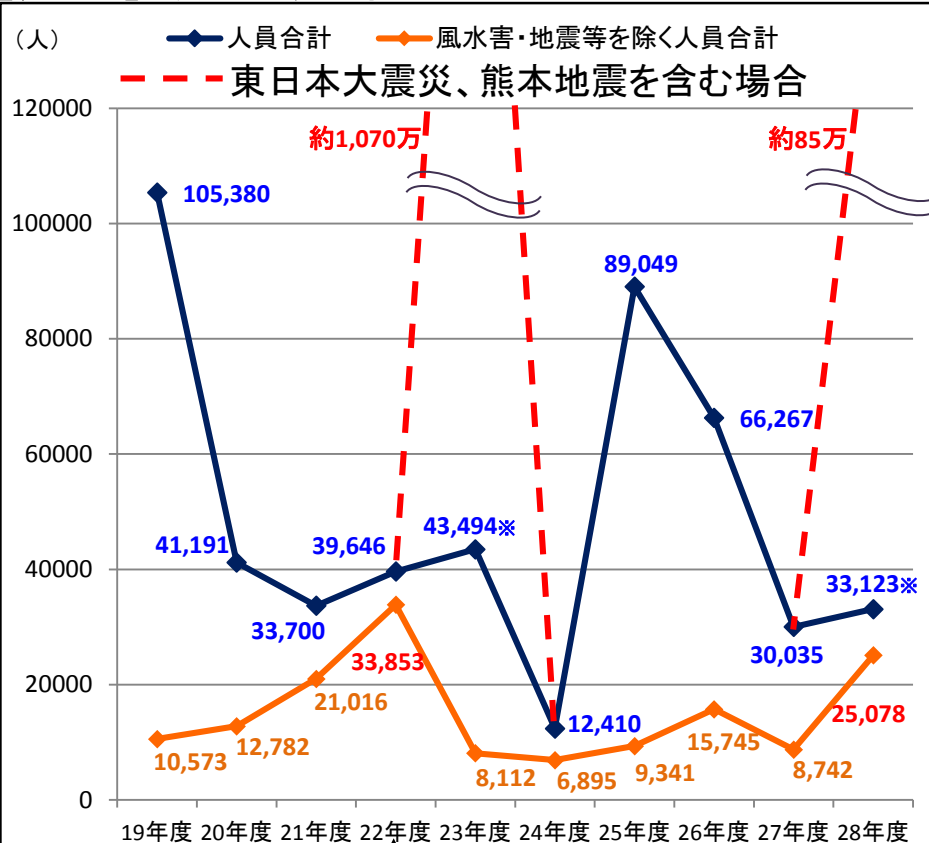


■ 28年度派遣人員

熊本地震:約81万4千人、熊本地震以外の災害派遣:33,123人

- 過去10年間、「風水害・地震等」の占める割合が大きく、28年度においても、平成28年熊本地震に係る災害派遣を実施したため、「風水害・地震等」が約97%(熊本地震が約96%)
- 熊本地震以外の災害派遣では、高病原性鳥インフルエンザに係る災害派遣(計9件)を実施したため、「その他の災害派遣」の占める割合が大きく、熊本地震以外の災害派遣の約47%

【表1-3】 派遣人数の推移



※ 平成23年度は、東日本大震災を除く(約1,066万5千人)

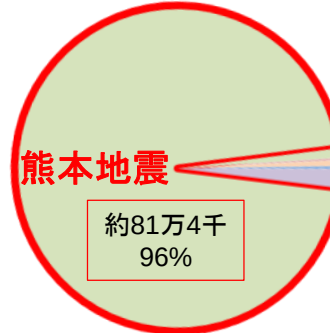
※ 平成28年度は、熊本地震を除く(約81万4千人)

口蹄疫
高病原性鳥インフルエンザ
(延べ約25,500名)

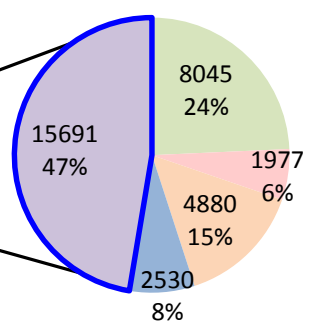
高病原性鳥インフルエンザ
(延べ約14,700名)

【表1-4】 28年度の災害派遣の内訳

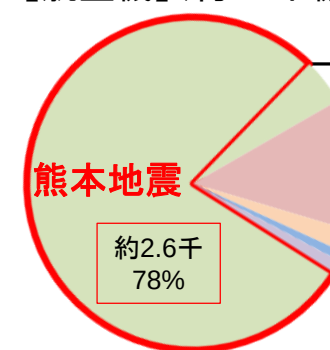
熊本地震
【人員】(約81万4千人)



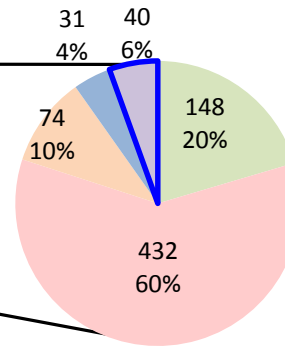
熊本地震以外
【人員】(計33,123人)



熊本地震
【航空機】(約2.6千機)



熊本地震以外
【航空機】(計725機)



熊本地震 風水害・地震等(熊本地震除く) 急患輸送 消火支援
捜索救助 その他の災害派遣(高病原性鳥インフルエンザ(計9件)を含む。)

(2) 細部実績等

風水害・地震等

【表1-5】28年度の風水害・地震等の大規模災害

件 名	時 期	活動地域	派遣部隊	規模(延べ)	活動内容
平成28年熊本 地震に係る災害 派遣	4/14 ～ 5/30	熊本県 大分県	陸自： 各方面隊、中央即応集団、大臣 直轄部隊 等 海自： 自衛艦隊、各地方隊、大臣直轄 部隊 等 空自： 航空総隊、航空支援集団、大臣 直轄部隊 等	・ 人 員： 約81万人 ・ 航空機： 約2.6千機 ・ 艦 艇： 約300隻	・ 人命救助 ・ 行方不明者搜索 ・ 生活支援 等
<参考> 阪神・淡路大震災に 伴う災害派遣	平成7年 1/17～4/27	兵庫県 大阪府	陸自： 各方面隊、大臣直轄部隊 等 海自： 自衛艦隊、横須賀・呉・地方隊 等 空自： 航空総隊、航空支援集団 等	・ 人 員： 約225万人 ・ 航空機： 約13千機 ・ 艦 艇： 約680隻	・ 人命救助 ・ 行方不明者搜索 ・ 生活支援 等
台風10号に伴 う大雨に係る災害 派遣(岩手、北海 道)	8/31 ～ 9/18	北海道 清水町、新得町、 大樹町、南富良野町、 芽室町、占冠村 岩手県 釜石市、久慈市、 宮古市、岩泉町、 田野畑村	陸自： 北部方面隊(第2師団、第5旅団 北方直轄部隊)、東北方面隊(第9 師団、東北方直轄部隊)、中央即応 集団 海自： 航空集団(第21航空群大湊航空 分遣隊)	・ 人 員： 6,100人 ・ 車 両： 2,163両 ・ 航空機： 131機	・ 人命救助 ・ 行方不明者搜索 ・ 生活支援 等
<参考> 平成27年9月関 東・東北豪雨に係る 災害派遣(茨城、栃木、 宮城)	平成27年 9/10 ～ 9/19	茨城県 常総市及び結城市 栃木県 日光市 宮城県 大崎市及び大和町	陸自： 東部方面隊(第1師団、第12旅団、東方直 轄部隊)、東北方面隊(第6師団、東北方直 轄部隊)、中央即応集団 等 海自： 航空集団(第21航空群、第51航空隊) 空自： 航空総隊(航空救難団、偵察航空隊 等)	・ 人 員： 17,628人 ・ 車 両： 3,305両 ・ 航空機： 167機	・ 人命救助 ・ 行方不明者搜索 ・ 入浴支援 等

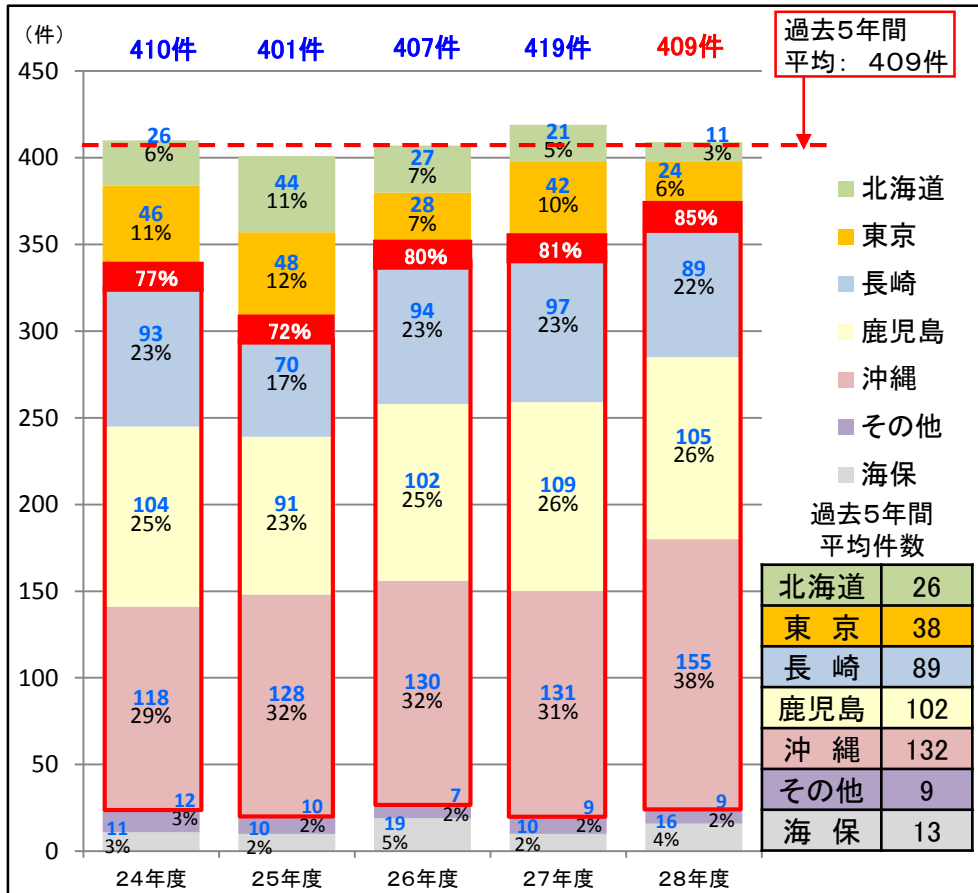
風水害・地震等に対する人員、車両及び航空機の派遣規模は、他の災害派遣と比して**大規模**

急患輸送

■ 28年度総件数： 409 件

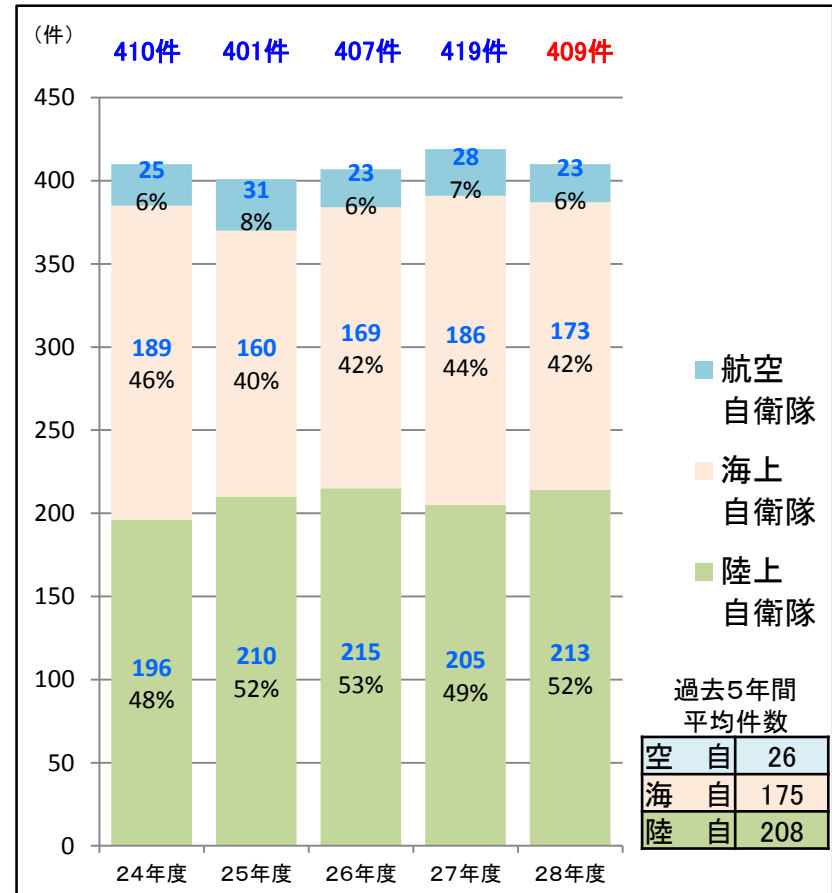
総件数は、前年度比10件減少し、**過去5年間の平均と同等**

【表1-6】 過去5年間の総件数及び要請都道府県等別実績



過去5年間、**島しょ地域の多い県**(長崎、鹿児島及び沖縄)からの要請の占める割合が大きく、**28年度は約85%**

【表1-7】 28年度の陸海空自衛隊別実績



過去5年間、**陸上自衛隊**の占める割合が大きく、**28年度は約52%**

消火支援

■ 28年度総件数： 57件

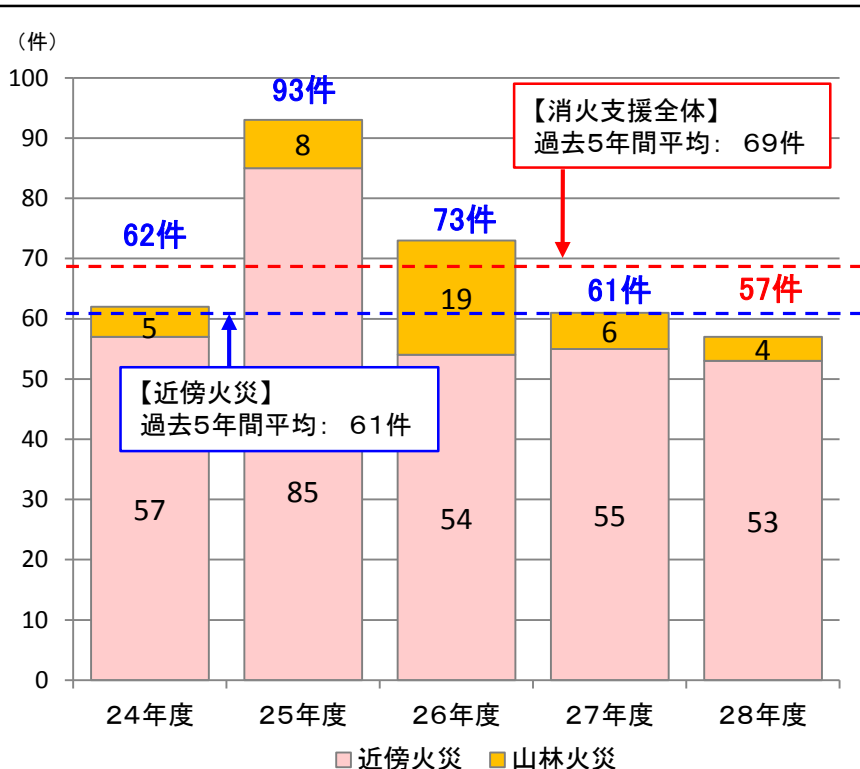
総件数は、前年度比4件減少し、過去5年間の平均とほぼ同等

■ 大規模な消火支援

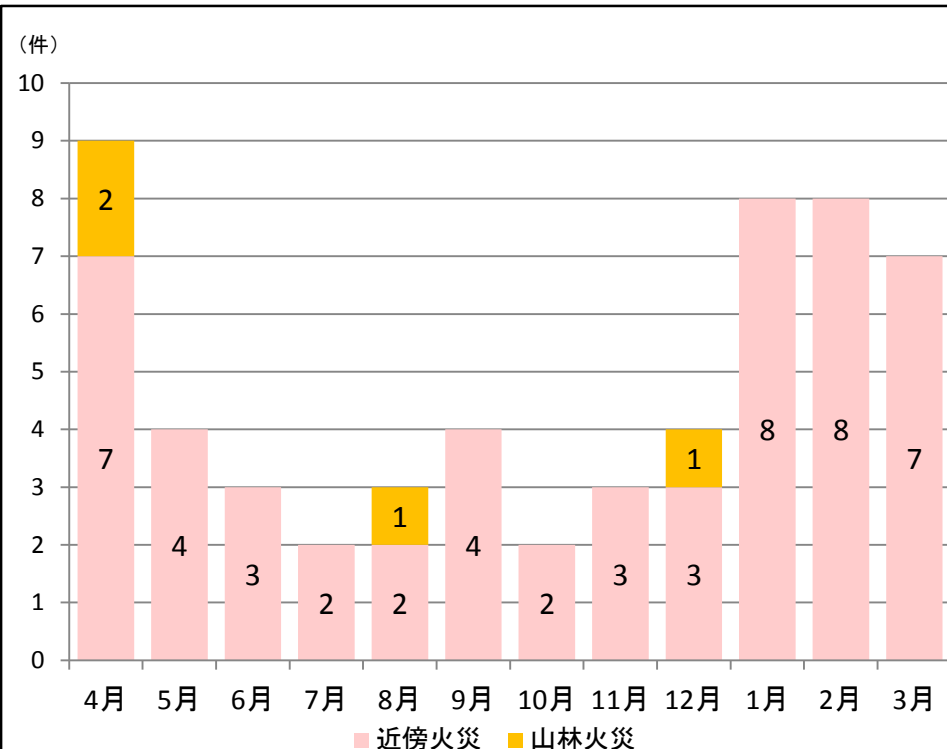
新潟県糸魚川市における火災に係る災害派遣（派遣期間：平成28年12月22～23日）

派遣規模：人員延べ1,657人、車両：延べ75両、航空機：延べ9機

【表1-8】 過去5年間の消火支援の年度別実績



【表1-9】 28年度の消火支援の月別実績



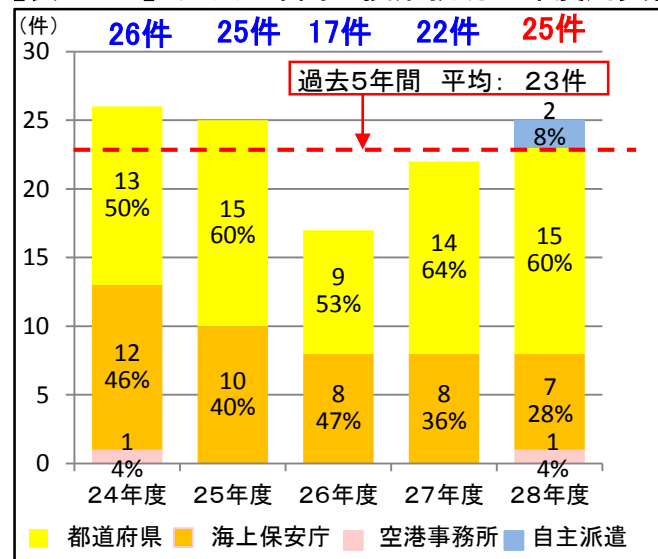
- 28年度の近傍火災件数は、前年度比ほぼ同数であり、過去5年間の平均より8件少
- 28年度の山林火災件数は、前年度比ほぼ同数

- 近傍火災は例年冬季から春季に多い傾向があり、28年度は1～4月に年間の約57%を実施
- 山林火災は例年春季に集中する傾向があり、28年度は、4件中2件を4月に実施

搜索救助

■ **28年度総件数： 25件** 総件数は、前年度比3件増加し、**過去5年間の平均とほぼ同等**

【表1-10】 過去5年間の搜索救助の年度別実績



【表1-12】 航空救難に準ずる災害派遣の年度別実績

年 度	24	25	26	27	28
件 数	2	1	0	0	4

【表1-11】 要請機関別実績

要請機関	件 数	種 類	派遣部隊
都道府県	15	山岳遭難者搜索 行方不明者搜索	陸自：第2・4・6・7師団、 第11・12旅団 等
海上保安庁	7	遭難船舶搜索 遭難航空機搜索 行方不明者搜索	海自：舞鶴地方隊、航空集団 等 空自：航空救難団
空港事務所	1	行方不明者搜索	陸自：第12旅団 空自：航空救難団
自主派遣	2	行方不明者搜索	海自：航空集団 空自：航空救難団

【表1-13】 航空救難に準ずる災害派遣

時 期	要請者	場 所	件 名	派遣部隊
9月	自主派遣	沖縄県	沖縄県東方沖における米軍機の搜索救助に係る対応	空自：航空救難団
12月	第5管区 海上保安本部長	高知県	高知県土佐清水沖における米軍機の搜索救助に係る災害派遣	海自：自衛艦隊 等 空自：航空救難団
12月	第11管区 海上保安本部長	沖縄県	MV22オスプレイの不時着水に伴う搜索救助に係る災害派遣	空自：航空救難団
3月	東京空港事務所長 長野県知事※	長野県	長野県消防防災ヘリ墜落に伴う人命救助に係る災害派遣	陸自：第12旅団 空自：航空救難団

※ 東京空港事務所長による要請に件数計上

- 過去5年間、**都道府県からの要請が最多**であり、28年度は約6割
- 28年度は、**航空救難に準ずる災害派遣が、過去5年間で最多**(4件)

その他の災害派遣

- **高病原性鳥インフルエンザへの対応(9件)** 高病原性鳥インフルエンザに伴う**殺処分等の支援**を実施

2 不発弾等処理

(1) 陸上において発見された不発弾その他の火薬類

■ 全 国： 処理件数 1, 372_※ 件、処理重量 42. 3_※ トン

○ 記録のある昭和50年度以降、戦後の時間経過に伴い、**処理件数・処理重量ともに急激に減少**

○ **平成以降、全体としての処理件数は概ね一定**

※ 公表後に、下記のとおり誤りが発覚したことから訂正しております。
誤) 全国の処理件数 1, 379件、全国の処理重量 42. 1トン、沖縄の処理重量 25. 6トン
正) 全国の処理件数 1, 372件、全国の処理重量 42. 3トン、沖縄の処理重量 25. 7トン

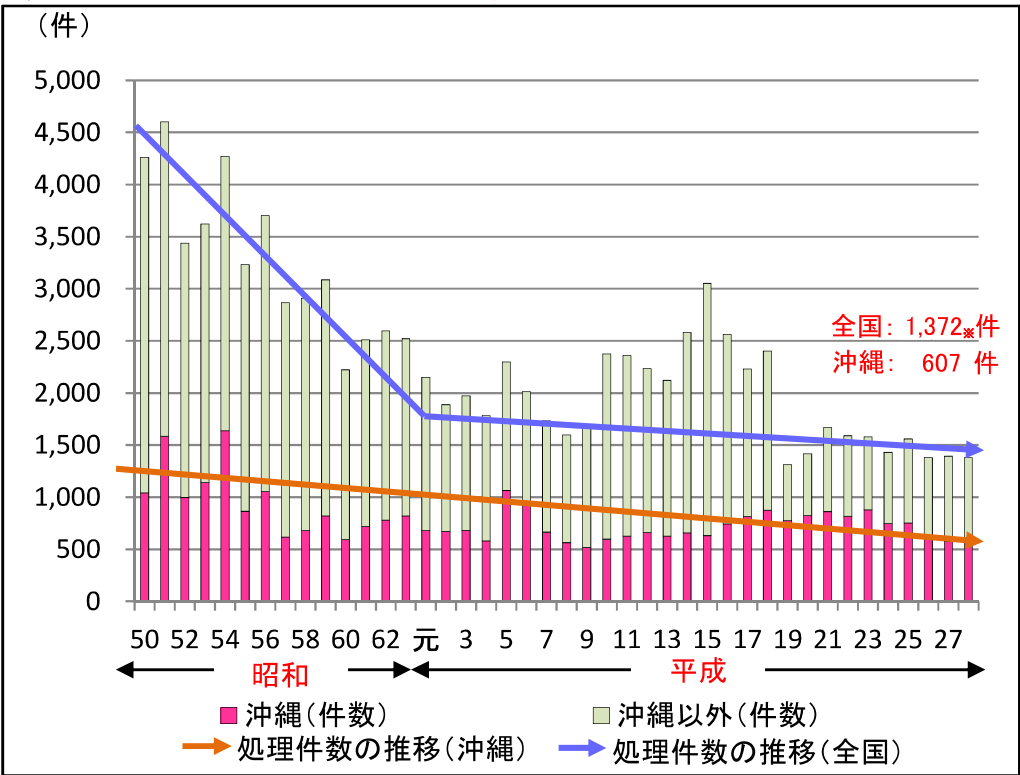
■ 沖 縄： 処理件数 607件、処理重量 25. 7_※ トン

○ 記録のある昭和50年度以降、沖縄県では**処理件数・処理重量ともに緩やかに減少**

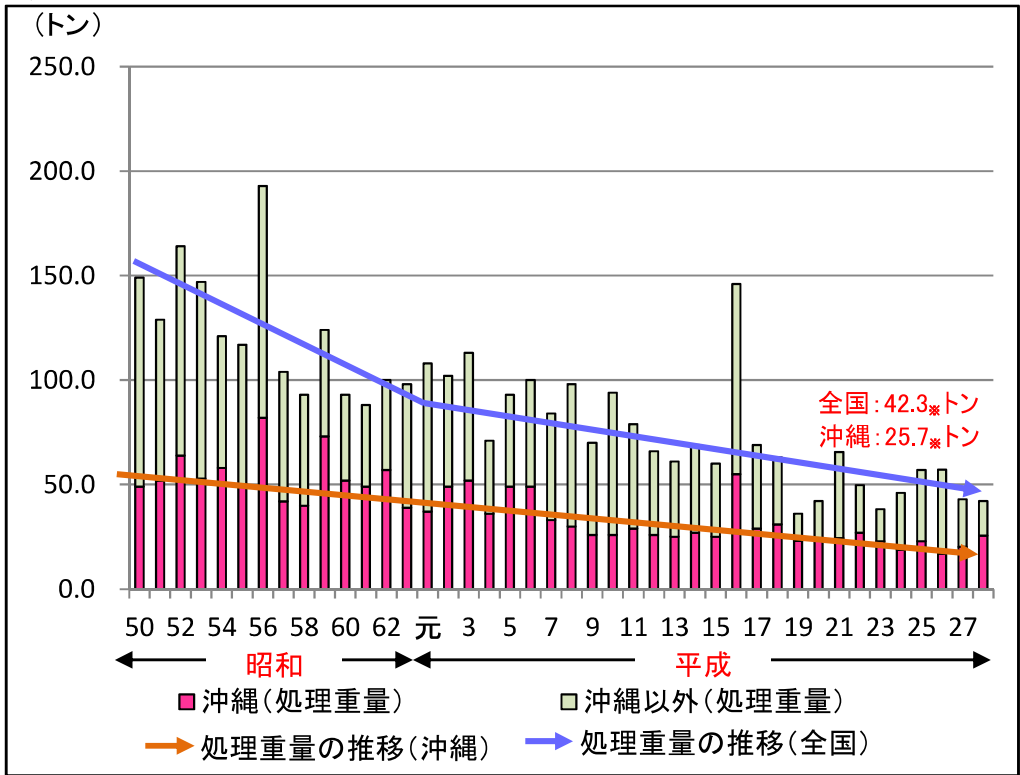
○ 処理件数・処理重量ともに**沖縄県の全国に占める割合が大きく、28年度は処理件数の約44%、処理重量の約61%**
(処理件数の全国比は、昭和50年度～平成18年度平均が約31%に対し、平成19～28年度平均が約51%)

■ 大規模な住民避難を伴った処理事例
静岡県浜松市における避難対象者約12, 000人を伴う不発弾処理。第102不発弾処理隊により爆破処理(平成28年12月18日)

【表2-1】 不発弾等**処理件数**の推移 ※ 昭和49年度以前の記録なし



【表2-2】 不発弾等**処理重量**の推移 ※ 昭和49年度以前の記録なし



(2) 海上における機雷その他の爆発性の危険物

※ 公表後に、下記のとおり誤りが発覚したことから訂正しております。
 誤) 処理個数 23, 597個、処理重量 約4. 1トン
 正) 処理個数 23, 603個、処理重量 約4. 2トン

■ 機 雷： 処理個数 1個、処理重量 約0. 08トン

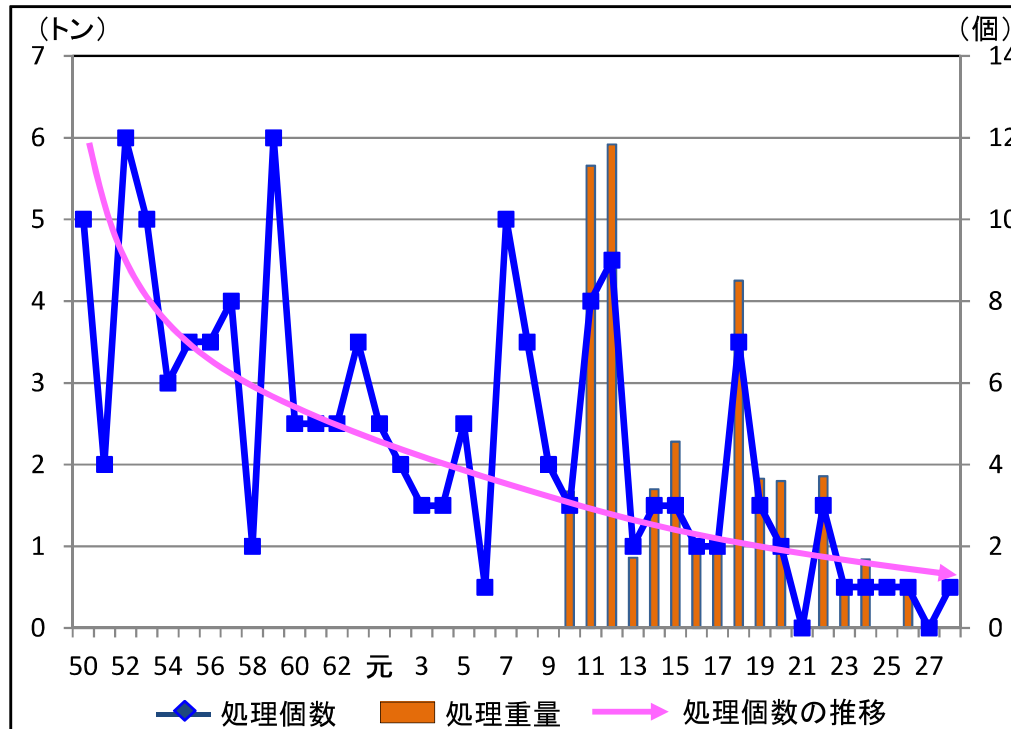
- 記録のある昭和50年度以降、戦後の時間経過に伴い**処理個数・処理重量ともに減少傾向**
- 21年度及び27年度以外は、毎年度処理実績あり

■ その他の爆発性危険物(魚雷、爆雷、爆弾、砲弾等)： 処理個数 23, 603_※個、処理重量 約4. 2_※トン

- 処理重量は、阪神・淡路大震災の港湾復旧作業時に大量の爆発性危険物が発見された7・8年度をピークとして、9年度以降は低い水準で推移
- 処理個数は、年度による変動が大きく、**港湾工事において大量に発見されるケース**(18年度： 舞鶴西港)があり、28年度は横須賀港の工事において大量の砲弾等を発見※

※ 28年度に計**26, 037個**を発見(未処理分を含む。)

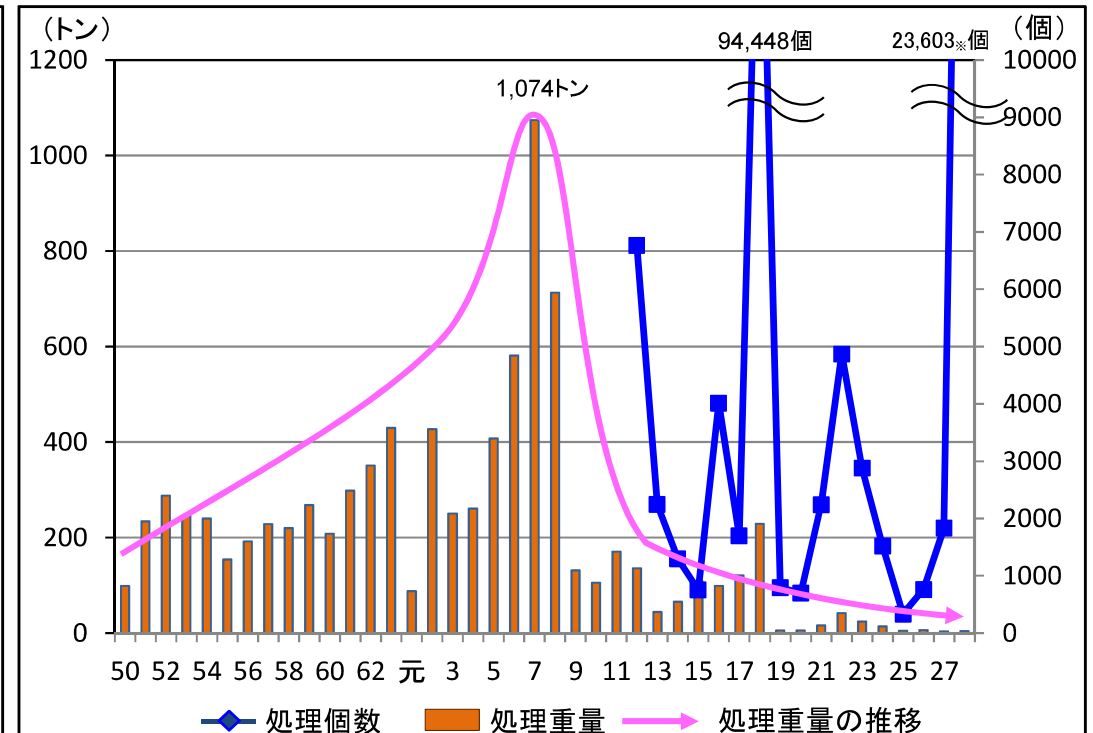
【表2-3】 機雷の処理個数及び処理重量の推移



※ 昭和49年度以前の記録なし

※ 平成9年度以前の処理重量に関する記録なし

【表2-4】 その他の爆発性危険物の処理個数及び処理重量の推移



※ 平成7～8年度は、阪神・淡路大震災の港湾復旧作業において砲弾等が大量に発見されたため、処理重量が大

※ 平成18年度は、舞鶴西港の浚渫工事において、旧軍小火器弾が大量に発見されたため、処理個数が大

※ 昭和49年度以前の記録なし

※ 平成11年度以前の処理個数に関する記録なし

平成28年熊本地震に係る災害派遣(熊本、大分)

11
別紙第1

災害の概要

- 4月14日(木)及び16日(土)(本震)、熊本地方を震源とする震度7の地震が発生
- 4月14日(木)、熊本県知事から陸自第8師団長(北熊本)に対して、また同月16日(土)に大分県知事から陸自西部方面特科隊長(湯布院)に対して、それぞれ人命救助等に係る災害派遣要請
- 5月30日(火)、熊本県知事から第8師団長に対し、災害派遣撤収要請、活動終了

本災害派遣の特徴

発災直後の迅速な対応



発災(本震)からわずか3時間半で陸海空自衛隊による統合任務部隊(以下「JTF」という。)を編成、速やかに約2万6千人態勢に移行

政府主導による救援物資輸送



当初プッシュ型支援、じ後プル型支援による物資輸送

日米共同による対処



オスプレイ等を用いた救援物資輸送

被災者のニーズに応じたきめ細やかな生活支援

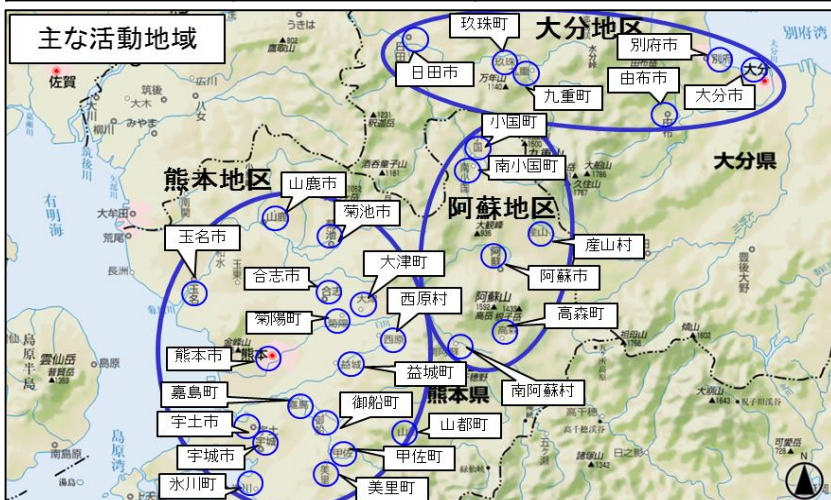


瓦礫等の搬出、エコノミークラス症候群対策としての自衛隊の天幕の貸与、被災者の休養施設としての民間船舶「はくおう」の利用、即応予備自衛官の活用

派遣規模(累計)

人 員	約814, 200名
航空機	約2, 620機
艦 艇	約300隻

主な活動地域



活動内容(累計)

人命救助等	約1, 350名(うち、人命救助16名)	
給食支援	約911, 700食	
給水支援	約10, 920トン	
入浴支援	約140, 940名	
医療支援	約2, 320名	
物資輸送	飲料水 約1, 003, 000本等	
米軍による輸送支援	自衛隊員・車両	22名・8両
	生活支援物資	約36トン
瓦礫等の搬出	トラック約160台分	
はくおう	約2, 600名	
即応予備自招集	約160名	

平成28年熊本地震に係る災害派遣(熊本、大分)

政府主導の救援物資輸送

概 要	発災当初は、被災地に必要不可欠な救援物資を プッシュ型支援 により輸送、その後被災地の復旧に伴い、被災者のニーズに基づく救援物資の プル型支援 による輸送に移行
プッシュ型支援	政府が被災地からの具体的な要請を待つことなく調達した大量の救援物資(食糧(パン、おにぎり等)、水、仮設トイレ、食物アレルギー対応食品等)を積極的に輸送
プル型支援	被災者のニーズに応じたきめ細やかな輸送支援 ○ 物資集積拠点から、各自衛隊の輸送手段をもって各避難所へ輸送 ○ 御用聞き隊(女性自衛官活用)、現地活動部隊により被災者のニーズを把握
輸送要領	○ 政府が調達した救援物資を 統合輸送統制(幹線輸送) 及び JTF計画(端末輸送) により、迅速かつ円滑に輸送(下図参照) ○ JTF司令部内に設置された生活支援調整所により、円滑かつ効率的な輸送調整を実施
日米共同対処	○ オスプレイ により、岩国基地、高遊原分屯地及び護衛艦「ひゅうが」から南阿蘇村へ救援物資を輸送 ○ C-130 により、千歳基地から北部方面隊の隊員等を熊本空港へ輸送

区 分	統合輸送統制(幹線輸送)	JTF計画(端末輸送)
輸送要領(一例)	高遊原分屯地(熊本空港) 千歳基地 入間基地 小牧基地 【凡 例】 → 航空輸送 → 地上輸送 → 米軍輸送 ● 集積拠点 ● 駐屯地等 ○ 避難所等 内閣府等が準備した救援物資を、空自輸送機等により輸送し、現地集積拠点への早期到着を促進	福岡市青果市場跡地 春日基地 鳥栖流通センター(日本通運(株)) 目達原駐屯地 岩国基地 護衛艦「ひゅうが」 高遊原分屯地 現地集積拠点の救援物資を、要請に基づきヘリ・車両により輸送し、各避難所への早期到着を促進

平成28年熊本地震に係る災害派遣(熊本、大分)

瓦礫等の搬出

概 要	環境省の依頼に基づき、熊本市内において、通路にあふれて人や車の往来の支障となっている瓦礫等を市が設定した仮置き場へ搬出
実施部隊	第8師団(北熊本)、第5施設団(小郡)及び第8航空団(築城)
装 備	バケットローダー及びダンプトラック
実施時期	4月27日(水)～5月3日(火)
実施場所	熊本市中央区、東区及び南区
細部要領	機械力を活用し、自治体職員、ボランティア等と連携して、瓦礫等を搬出
搬出量	ダンプトラック×約160台分

【熊本市南熊本駅前通り】

【作業前】



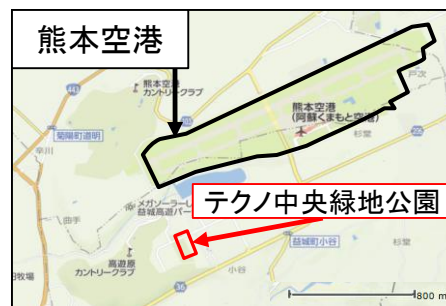
【作業後】



エコミークラス症候群対策(天幕の貸与)

概 要	益城町において、車中泊等による被災者のエコミークラス症候群発症を予防するため、自治体に天幕を貸与
実施部隊	第8師団(北熊本)
実施時期	5月5日設置。7日から30日まで貸与
実施場所	熊本県上益城郡益城町田原「テクノ中央緑地公園北側芝生空き地」(下図参照)
細部要領	○ 自衛隊6人用天幕×20の展張及び貸与 ○ 天幕内の生活必需品(すのこ、暖房器具、照明、簡易トイレ、毛布等)は自治体が準備 ○ 運営は自治体の実施

【テクノ中央緑地公園
北側芝生空き地】



【6人用天幕】



平成28年熊本地震に係る災害派遣(熊本、大分)

民間船舶「はくおう」の利用

【はくおう】



【客 室】



【浴 場】



【慰問演奏】



概 要

被災された方々への災害救援活動の一環として、防衛省が契約している民間船舶「はくおう」を休養施設として利用し、1泊2日の宿泊、食事及び入浴のサービスを提供

実施市町村

熊本県内の市町村
(熊本市、益城町、南阿蘇村等)

実施回数

計17回

利用者数

延べ2,605名
(ネット申込221名)

細部要領

- 避難所と「はくおう」間の輸送支援及び音楽演奏を実施
- 防衛省HPによる宿泊の募集を実施

平成28年熊本地震に係る災害派遣(熊本、大分)

即応予備自衛官による生活支援等

区 分		活動実績
資格・技能を活かした常備自衛官の機能補完	健康指導 衛生管理	資格・技能を活かし、 看護師 による親身な衛生指導、 整体師 及び 鍼灸師 による避難者のマッサージ並びに 作業療法士資格保有者 による避難者の健康指導等を行い、避難者の心と体のケアを実施
	物資輸送	運輸会社に勤める隊員を物資集積所に配置し、 フォークリフト操作資格 を活かして、常備自衛官及び役務(民間業者)とローテーションを組んで、 物資積載支援を実施
地域に密着した親身な支援	車両誘導 (道案内)	九州自動車道の不通により熊本市内が大混雑する中、 地理を熟知した熊本市在住の隊員 により他方面部隊の 車両誘導 (道案内)を実施し、円滑・迅速な物資輸送を支援

【看護師による衛生指導】



【整体師等によるマッサージ】



【フォークリフト操作資格を活かした積載支援】



【誘導員(中央)による道案内】



平成28年熊本地震に係る災害派遣(熊本、大分)

		熊本地震(H28)	中越地震(H16)	阪神・淡路大震災(H7)
活動内容 (累計)	活動期間(日数)	4/14～5/30(47日間)	10/23～12/21(60日間)	1/17～4/27(101日間)
	人命救助等	約1,350名	約1,750名	約1,400名
	給食支援	約91.2万食	約115.6万食	約58.2万食
	給水支援	約1.1万トン	約0.1万トン	約6.1万トン
	入浴支援	約14.1万名	約16.7万名	約51.5万名



警察・消防との連携



給食支援



入浴支援



物資輸送



警備犬による搜索



給水支援



日米合同慰問演奏



医療支援

高病原性鳥インフルエンザに係る災害派遣(1道7県)

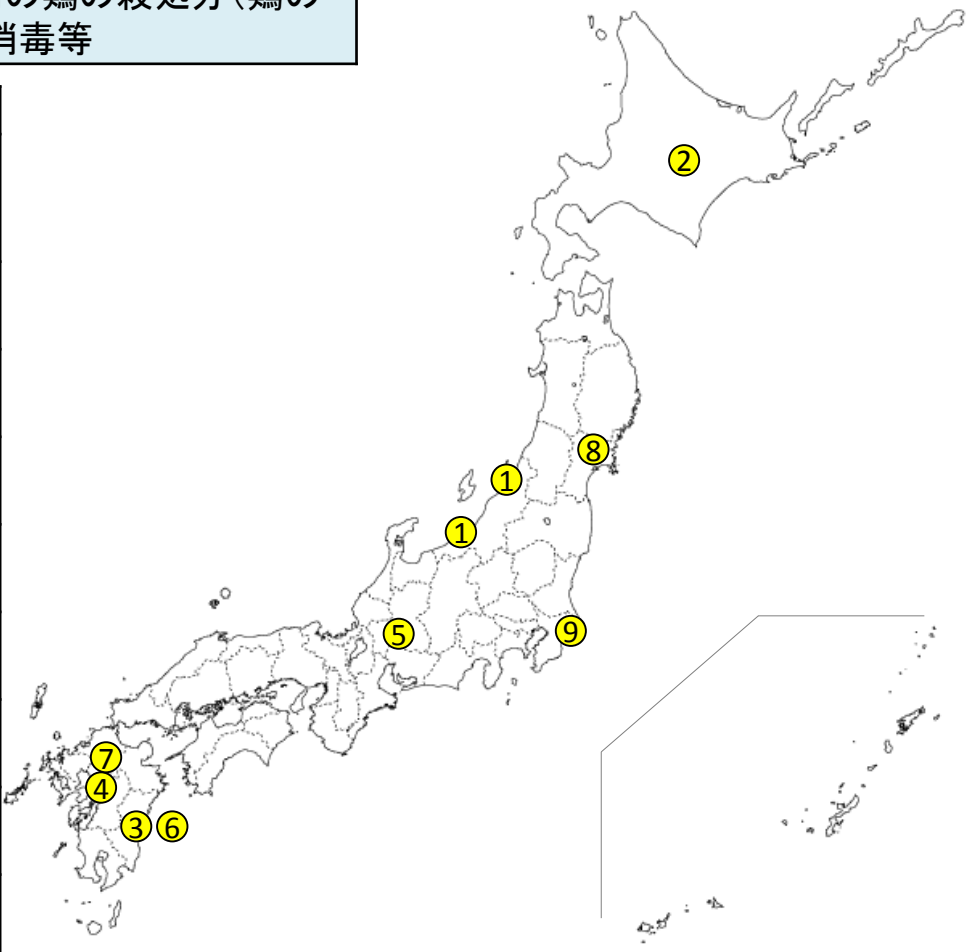
【概要】

- 平成28年11月中旬に野鳥から高病原性鳥インフルエンザが確認されて以降、全国で家きん、野鳥への感染が確認
- 自衛隊は、平成28年11月29日(火)、新潟県における鳥インフルエンザに係る災害派遣以降、計8道県において計9回(10個地域)の災害派遣を実施

【主な内容】

高病原性鳥インフルエンザの感染が確認された農場内の鶏の殺処分(鶏の回収、殺処分、袋詰め、運搬、埋却等)、鶏舎等の清掃・消毒等

番 号	実施時期	場 所	人 員	車 両	主要対処部隊
①	11/29～12/4	新潟県 関川村 上越市	約4,570名	約735両	陸自：第12旅団
②	12/16～12/22	北海道 清水町	約4,255名	約525両	陸自：第5旅団
③	12/20～12/21	宮崎県 川南町	約485名	約85両	陸自：第8師団
④	12/27～12/28	熊本県 南関町	約715名	約165両	陸自：第8師団
⑤	1/14～1/16	岐阜県 山県市	約655名	約210両	陸自：第10師団
⑥	1/24～1/26	宮崎県 木城町	約840名	約125両	陸自：第8師団
⑦	2/4～2/6	佐賀県 江北町	約425名	約115両	陸自：第4師団
⑧	3/24～3/27	宮城県 栗原市	約2,055名	約545両	陸自：第6師団
⑨	3/24～3/25	千葉県 旭市	約705名	約70両	陸自：中央即応集団



高病原性鳥インフルエンザに係る災害派遣(1道7県)



作業説明



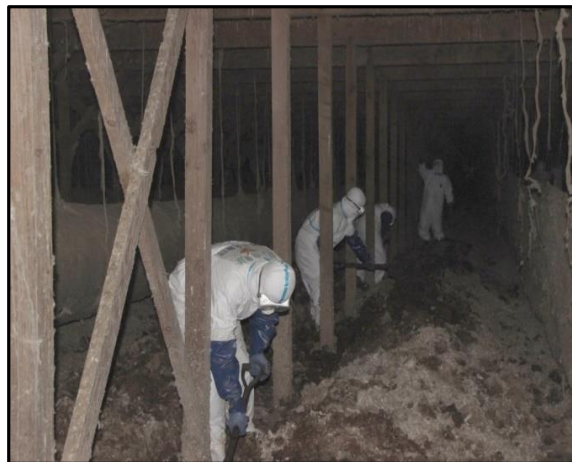
用具の搬出作業



殺処分



隊員の洗浄



鶏舎の清掃



消毒(石灰の散布)

台風10号に伴う大雨に係る災害派遣(北海道)

【概要】

- 8月31日(水)、台風10号に伴う大雨により道路が冠水し、孤立者や断水が発生
- 同日、北海道知事(十勝総合振興局長)から陸自第5旅団長(帯広)に対し、また北海道知事(上川総合振興局長)から第4特科群長(上富良野)に対し、それぞれ孤立者救助等に係る災害派遣要請
- 9月6日(火)、北海道知事(上川総合振興局長)から第4特科群長に対し、同月18日(日)、北海道知事(十勝総合振興局長)から第5旅団長に対し、それぞれ災害派遣撤収要請、活動終了

【本災害派遣の特徴】

- 孤立者等救助、行方不明者捜索を第一義として、災害派遣活動を実施
- 各自治体のニーズに適合させた生活支援を実施
- 警察、消防等関係機関と連携し、行方不明者捜索を実施

【派遣規模(延べ数)】

人 員	約2,100名
車 両	約700両
航空機	約20機

【派遣の内容】

【孤立者等救助】

孤立した地域において、航空機、ボート及び車両により救助活動を実施

【給水・給食・入浴支援】

自治体のニーズを踏まえ、給水・給食・入浴支援を実施

【物資輸送】

孤立地域への食料等の輸送を実施

【公共施設等周辺啓開】

自治体のニーズを踏まえ、公共施設周辺等の啓開を実施

【水防活動】

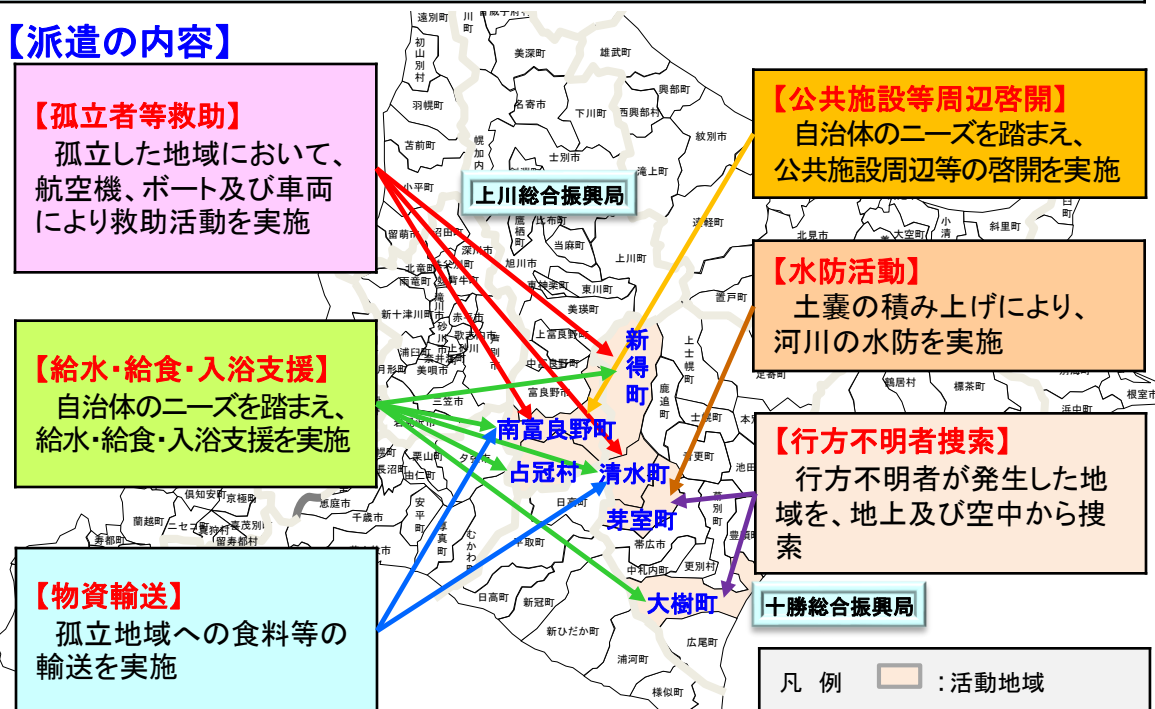
土壌の積み上げにより、河川の水防を実施

【行方不明者捜索】

行方不明者が発生した地域を、地上及び空中から捜索

【派遣実績(累計)】

人命救助	孤立者等救助・行方不明者捜索	158名
	水防活動	土嚢:約500袋
生活支援	給水支援	約1,810トン
	給食支援	約390食
	入浴支援	約3,470名
	物資輸送	食料:約500食
	公共施設等周辺啓開	6ヶ所



台風10号に伴う大雨に係る災害派遣(北海道)

20



孤立者等救助・行方不明者搜索



給水支援



給食支援



入浴支援



警察・消防との連携



ボートによる孤立者等救助

台風10号に伴う大雨に係る災害派遣(岩手)

【概要】

- 8月30日(火)、台風10号に伴う大雨により道路が冠水し、孤立者が発生
- 同日、岩手県知事から陸自第9特科連隊長(岩手)に対し、孤立者等救助等に係る災害派遣要請
- 9月16日(金)、岩手県知事から陸自第9特科連隊長に対し、災害派遣撤収要請、活動終了

【本災害派遣の特徴】

- 孤立者等救助、行方不明者捜索を第一義として、災害派遣活動を実施
- 各自治体のニーズに適合させた生活支援を実施
- 被災地域の各世帯を隊員が巡回して安否確認を実施し、自治体の被害全容把握に寄与
- 孤立者に対して、各自治体のニーズに基づき、孤立地域からの救助を実施するとともに、食料等物資輸送や一時帰宅支援を実施

【派遣規模(延べ数)】

人 員	約4,000名
車 両	約1,600両
航空機	約110機

【派遣の内容】

【孤立者等救助・行方不明者捜索】

被災地域において、航空機等により、救助及び捜索活動を実施

【安否確認活動】

被災地域住民の安否確認、孤立者・行方不明者の把握

【道路の啓開】

道路及び周辺施設の瓦礫の除去

【患者輸送】

航空機による負傷者・体調不良者の輸送

【自治体職員等輸送】

航空機による国／県職員等の輸送

【給水・給食・入浴支援】

自治体のニーズを踏まえ、給水・給食・入浴支援を実施

【物資輸送】

孤立地域への食料等の輸送を実施

【避難者一時帰宅支援】

避難者の一時帰宅のため、航空機による人員輸送を実施

【派遣実績(累計)】

人命救助	孤立者等救助・行方不明者捜索		265名
	患者輸送		54名
	道路の啓開		約30km
	安否確認活動		270世帯
生活支援	給水支援		約146トン
	給食支援		約7,290食
	入浴支援		約1,300名
	物資輸送	水	約2,120リットル
		飲料水	約7,260本
		食料	約5,120kg
	避難者一時帰宅支援		43名
自治体職員等輸送		123名	



凡 例 : 活動地域

台風10号に伴う大雨に係る災害派遣(岩手)

22



孤立者等救助



行方不明者搜索



患者輸送



給水支援



給食支援



入浴支援



警察・消防との連携



道路の啓開



物資輸送



物資輸送(物資仕分)



一時帰宅支援